

■コメント

1 手足口病

定点当たり15.82人の報告があり、前週の約1.4倍に増加しました。手洗いの励行、オムツの適切な処理、タオルの共用を避けるなど、感染予防対策を心がけましょう。特に、この疾患にかかりやすい年齢層の乳幼児が集団生活する保育園や幼稚園などでは、注意が必要です。

2 咽頭結膜熱

定点当たり1.05人の報告があり、増加が続いています。手洗いの励行、タオルの共用を避けるなど、感染予防対策を心がけましょう。

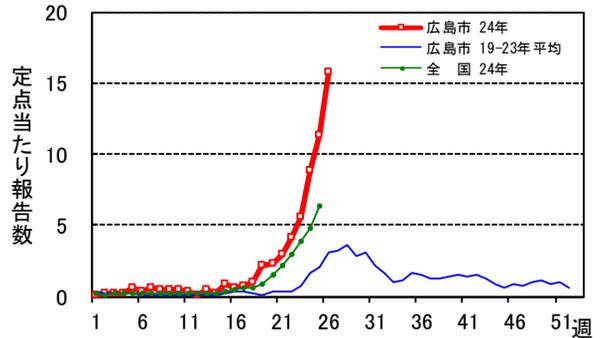
3 腸管出血性大腸菌感染症

1件の報告があり、今年の累計は11件になりました。(次ページ参照)

4 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)

定点当たり3.29人の報告がありました。前週と比べてやや減少しましたが、高齢者施設等での集団発生が続いており、注意が必要です。引き続き、基本的な感染予防対策に取り組みましょう。

手足口病の流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
インフル	インフルエンザ	5	0.14	0.19		小児科	ヘルパンギーナ	25	1.14	1.00	
	新型コロナウイルス(COVID-19)	115	3.29				流行性耳下腺炎	-	-	0.18	
小児科	RSウイルス感染症	12	0.55	1.40		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	
	咽頭結膜熱	23	1.05	0.43			流行性角結膜炎	6	0.75	0.33	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	45	2.05	1.45		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	100	4.55	4.04			無菌性髄膜炎	1	0.14	-	
	水痘	5	0.23	0.14			マイコプラズマ肺炎	4	0.57	-	
	手足口病	348	15.82	3.07			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	伝染性紅斑	1	0.05	0.16			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	0.09	
	突発性発しん	10	0.45	0.36							

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ/COVID-19定点数(小児科定点を含む)	35
小児科定点数	22
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	4	58	10歳代・推定感染地域: 国外・1人、80歳代・2人
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	11	10歳代・O103
5	急性脳炎	1	6	10歳未満
5	後天性免疫不全症候群	1	2	40歳代・感染者
5	侵襲性肺炎球菌感染症	1	6	40歳代
5	梅毒	2	71	40歳代、60歳代
5	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	5	60歳代

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

報告数	広島市	感染症																			
		インフルエンザ	新型コロナウイルス(COVID-19)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)	
報告数	第22週	6	67	20	14	67	148	5	90	-	8	4	-	-	13	-	1	-	-	-	-
	第23週	1	87	23	13	66	148	6	123	9	5	18	2	-	19	-	-	2	-	-	4
	第24週	4	94	23	20	76	133	7	194	-	4	23	1	-	11	-	-	2	-	-	-
	第25週	6	137	23	21	77	110	4	251	-	9	32	-	-	4	-	-	1	-	-	2
	第26週	5	115	12	23	45	100	5	348	1	10	25	-	-	6	-	1	4	-	-	-
定点当たり	第22週	0.17	1.91	0.91	0.64	3.05	6.73	0.23	4.09	-	0.36	0.18	-	-	1.63	-	0.14	-	-	-	-
	第23週	0.03	2.49	1.05	0.59	3.00	6.73	0.27	5.59	0.41	0.23	0.82	0.09	-	2.38	-	-	0.29	-	-	0.57
	第24週	0.11	2.69	1.05	0.91	3.45	6.05	0.32	8.82	-	0.18	1.05	0.05	-	1.38	-	-	0.29	-	-	-
	第25週	0.17	3.91	1.05	0.95	3.50	5.00	0.18	11.41	-	0.41	1.45	-	-	0.50	-	-	0.14	-	-	0.29
	第26週	0.14	3.29	0.55	1.05	2.05	4.55	0.23	15.82	0.05	0.45	1.14	-	-	0.75	-	0.14	0.57	-	-	-
全国	第24週	0.15	4.16	1.22	0.92	4.46	4.70	0.25	4.74	0.09	0.32	0.79	0.07	0.05	0.70	0.01	0.03	0.32	-	-	0.05
	第25週	0.16	4.61	1.27	0.86	4.05	4.25	0.22	6.31	0.08	0.34	1.07	0.07	0.05	0.66	0.02	0.04	0.40	-	-	0.02

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	発症年月日	検査材料	検出病原体
COVID-19	発熱(39.0°C) 紅斑 リンパ節腫脹	10	2024/05/05	咽頭拭い液	新型コロナウイルス(2019-nCoV)
その他の呼吸器疾患	発熱(39.2°C) 紅斑 気管支炎	0	2024/05/04	咽頭拭い液	ライノウイルス RSウイルス
その他の疾患	発熱(40.0°C) 紅斑 リンパ節腫脹	1	2024/05/04	咽頭拭い液	アデノウイルス1型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

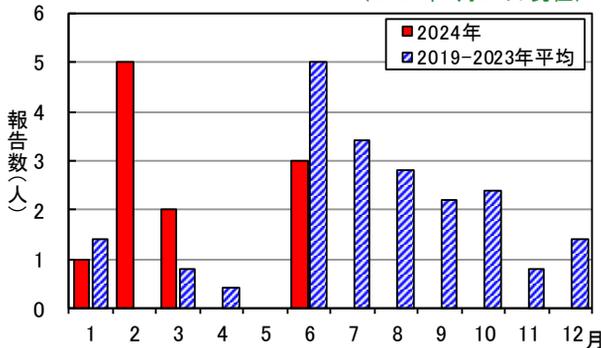
【参考】腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう！！

腸管出血性大腸菌は、「ベロ毒素」と呼ばれる毒素を産生する大腸菌で、少ない菌数でも感染すると言われていいます。菌に汚染された食品を食べたり、患者の糞便に含まれる菌が手指等を介して口から入ることで感染し、症状は、全くないものから腹痛や水様性下痢、血便、溶血性尿毒症症候群(HUS)などの重篤な合併症を起こし、時には死に至るものまで幅があります。

感染事例の原因食品等と特定あるいは推定されたものは、国内では牛肉、ハンバーグ、サラダ、白菜漬け、井戸水など様々なものがあります。

年間を通して発生が見られますが、夏から秋にかけて報告数が多くなる傾向があるため、これからの時期は、特に注意が必要です。

腸管出血性大腸菌感染症の月別報告数(広島市)
(2024年6月30日現在)



予防のために、次のことに注意しましょう

- ◆ 加熱して調理する食品は十分に加熱しましょう。
- ◆ 生野菜や調理器具は十分に洗浄しましょう。
- ◆ 食品は室温に放置せず、冷蔵庫や冷凍庫に保存しましょう。
- ◆ 調理の前、食事の前、トイレの後、排泄物の処理をした後などは、せっけんと流水で十分に手を洗いましょう。

【参考】

腸管出血性大腸菌Q&A(厚生労働省)
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000177609.html>



本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。
<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/infectious-disease/>



【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp